みわ塾　2007 年　東京の富士さん巡り　第６回

足立区のお富士さん‥‥日光街道に沿って！

足立区には 10 カ所ほどの富士塚が残っている。前回、北千住周辺の３つの富士山（大川富士、千住柳原富士、千住宮元富士）を回ったので、残りは七つ。昔は「七富士巡り」が流行したそうで、私たちも真似ようと思っている。しかし宮城富士だけがちょっと離れているので、これを割愛して、今回は日光街道沿いの六富士に、すぐ先の草加市谷塚の富士山を加えて七富士にしてみた。ちょっと距離は長いが、電車バスを使って歩きましょう。今回は地元で、何回も富士塚を歩いている田口さんに案内をしてもらいます。

■綾瀬富士‥‥‥綾瀬駅近く綾瀬神社境内、熔岩積み
■五反野富士‥‥‥西之宮稲荷神社境内、富士講碑多い。
■小右衛門富士‥‥小右衛門稲荷神社境内。高さはない。
■島根富士‥‥鷲神社境内。なかなか立派。旧日光街道沿い
■保木間富士‥‥‥保木間氷川神社。榛名富士かもしれない。田中正造碑
■花畑富士‥‥‥花畑浅間神社。社殿のみで、団地の隅に立っている。
■谷塚富士‥‥‥草加市、谷塚駅そば浅間神社境内。

みわ塾　講座　　三輪主彦（みわかずひこ）
〒173-0023　板橋区大山町 33-6　090-9827-8340
ホームページ　http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/

綾瀬富士　綾瀬稲荷神社境内　熔岩積みの　お富士山

■綾瀬稲荷神社（足立区綾瀬 4-9-9）

綾瀬駅から徒歩 3 分ほどの所に綾瀬稲荷神社がある。稲荷山観音寺という立派なお寺があるので、その塀づたいに行くと神社の鳥居前にでる。背後には大きなビルがあるので、ちょっと興ざめだ。

稲荷神社は全国に 32000 社あり、神社では最大の勢力を持っている。その総本社は京都の伏見稲荷だ。赤い鳥居が山の上まで続いている景色は壮観だ。しかしここの神社には赤い鳥居はない。

お稲荷さんの祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）という女神様で、須佐之男神と大山祇神の娘との間の子であり、食糧をつかさどり、稲の成育を守る神様といわれる。お稲荷さんには狐がつきもの。宇迦之御魂神の別名は御饌津神（みけつかみ）というが、それをちょっとシャレて三狐神（みけつかみ）と書くこともあった。そこから狐はお稲荷さんの使いということになって信仰されるようになった。

※　この稲荷の狛犬は落語家の三遊亭円丈さんが寄付したものだ。円丈さんはこの神社がごひいきで、神社の公式ＨＰを作っている。http://enjoo.com/ayaseinari/

■綾瀬富士（案内板の説明）

この富士塚は、神社境内右手南側にあったが、昭和 2 年に現在地に移築された。塚は、溶岩で固めた岩山であり、高さが約 2ｍある。富士塚の頂上には、浅間社を祀つる祠が安置され、裏面には昭和 2 年 7 月 1 日の銘がある。塔碑のうち、明治 42 年 7 月、山包丸渕講中の碑は、先達金子五兵衛外世話人によって献碑されたものである。最も新しい碑は山包綾瀬講富士登山記念碑で、昭和 36 年 7 月に建立している。講社は、はじめ山包丸渕講といい、この地の旧名称渕江領の頭文字を丸で囲み、丸渕といった。農民を中心に綾瀬村で結成された。江戸時代より農民に広まった富士山信仰を伝えるものとして、この富士塚を昭和 58 年 12 月に、また、山包丸渕富士講関係資料一式を昭和 62 年 11 月に、それぞれ区登録有形民俗文化財とした。

この富士塚は、フェンスで囲ってあるので登ることはできない。しかし小さいのでそばで詳しく見ることはできる。熔岩積みで、登山の道には合目の石碑もあり、洞穴もある。この富士塚を守っていた山包講（やまかね？　案内板にはさんぽうとある）は今はない。この富士山の山開きは綾瀬稲荷の宮司さんが執りおこなっている。

綾瀬稲荷から首都高５号線をくぐり、綾瀬川を渡って西に進むと、東武線のガードをくぐる。すぐに右手に行くと新装なった神社にでる。これは西之宮稲荷神社だ。背後には東武線の高架橋が見える。道路の反対側は五反野小学校だ。

五反野富士　西之宮稲荷神社　石碑がたくさんある富士塚。

■西之宮稲荷神社（足立区足立 3-28-16）

この地域（旧弥五郎新田）には三つの神社があったが、明治三年に「東之宮」を合祀し、大正元年には荒川放水路開鑿に当たり「稲荷神社」を合祀して、地域の総鎮守となったという。現在の社殿は平成 12 年に完成した。西之宮は地名ではなく、もとのお宮の名前、東之宮の名前はどこへいったのかな？

綾瀬稲荷についで、ここもお稲荷さんである。お稲荷さんのお使いは狐。狐はあぶらあげが大好き。いなり寿司は稲荷神社からでたもの。

この神社の社殿はなかなか立派だが、この建築方式は住吉造といい、大阪の住吉さんが本家で、稲荷社の総本家である伏見稲荷の造りとは違っている。まあそんな細かいことは気にしていないところが下町的でなかなかいい。社殿の右側に富士塚がある。

■五反野富士

2000 年に社殿が新築されたのに伴って、富士塚も移築され、きれいに整えられて、登山することはできなくなった。もともとは大正時代に造られたらしいが詳しい事は不明。社殿新築前には案内板があったが、取り外されたままだ。

高さは３m弱の熔岩積みで、登山道、お穴もある。丸参講の石碑がたくさんある。しかし羽黒三山の碑、日光二荒山などの碑もあり、移築されたときにそのあたりから適当に寄せ集めたのだろう。昭和 57 年に区の有形文化財になったが、こんなに変更してはまずいんじゃないかな。

小右衛門富士　小右衛門稲荷神社　ほとんど高さのない登山路

■小右衛門富士

東武伊勢佐木線の梅島駅から旧日光街道を環七方面に向かい、交番の先から右手にはいると小右衛門稲荷神社の鳥居が見える。鳥居を入って左手に折れると正面に社殿が見える。その右手に富士塚があるのだが、ただの植え込みと見間違えるようだ。登山道がつけられ、合目の石柱もあるが、まったく登った気はしない。こんな富士山もめずらしい。

地図には1.48mの三角点が富士塚付近にあるはずだ。あれば「日本一低い富士山」だったが、地盤沈下で埋もれてしまったようだ。国土地理院も埋没、使用不可と公表している。残念。

ところで、これまで３つの富士山とも、稲荷神社にあった。何でこのあたりは稲荷ばかりなのかなあ。

島根富士　鷲神社

■鷲神社（足立区島根 4-25-1）

≪案内板によると≫

祭神　日本武尊　誉田別命　国常立命

末社　三峯社

鷲（わし）神社は、旧利根川水系に多く祀られているが、当社は文保２年（1318）武蔵国足立郡島根村の地に鎮守として創建され、大鷲神社と唱えたと伝える。島根村は現在の島根・梅島・中央本町・平野・一ッ家等の全部または一部を含む大村であった。村内に七祠が点在していたが、元禄の頃、このうち八幡社誉田別命、明神社国常立命の二柱の神を合祀し、三社明神の社として社名を鷲神社に定めたという。

社殿は氏子中の寄進により、昭和三一年九月再建され、境内の整備も行われた。祭礼時に神楽殿で奉納される島根ばやし、島根神代神楽は昭和五七年十二月、同六十三年十一月にそれぞれ区登録無形民俗文化財とした。また境内にある享和二年（1802）の明神型石造鳥居は昭和六十年十一月区登録有形文化財とした。

※　お参りしているおじさんは、定年退職の日に日光に向けて第一歩を踏み出す覚悟を報告している。

■島根富士

≪これは富士塚の碑の解説≫

富士は日本一の山。日本人の心の古里である。今でこそ登山が日常化してはいるが昭和の初め白装に身を固め「六根清浄」を唱え乍ら、信仰の山、最高の修業の道場としてあがめられていた富士山。当時の神国日本の尊い山であった。島根の若者が「丸藤十三夜同行」として先達富岡小三郎氏に引率されて、何人もの人が島根富士講から出発している。村ではその帰着に合わせて牛車に万燈を仕立て島根ばやしのおはやし入りで村中の人が迎えに出た。千住大川町の氷川神社まで往きは子供達が大勢乗り込んで帰りは「六根から来る一切の迷いを断ち切って心身清らかに」なった島根の若者が行者姿も凛々しく仕立ての牛車に乗せて鷲神社まで帰った。富士塚に無事帰着の報告祭を行った。登山で日焼けした若者達がまるで修行を積んだ聖人の様に私達子供の目にうつった。先達の富岡氏が鷲神社に残してくれた神社の富士塚も幾星霜経て破損がひどく、この際復元した方が良かろうと云う事になり七月一日浅間祭までに工事を完了するべく地元有志の献身的な奉仕を頂き、此々に完成に至る。

昭和六十三年七月一日　氏子中

保木間富士　保木間氷川神社　保木間の誓い！

後半の３カ所はちょっと離れているので、歩くのはきついのでバスで移動します。

■氷川神社（足立区西保木間 1-11-4）

竹の塚駅から東の方向に 500mほど、渕江小学校の隣にあり、竹の塚の鎮守社である。

氷川さまの本社は武蔵の国の一ノ宮である。全国に 261 社あり、埼玉県に 462 社、東京には 68 社ある。武蔵の国造一族は出雲の分派なおで出雲の神様である須佐之男命を祀っている。

氷川は出雲の斐伊川に由来している。中世には武士の守護神として尊崇されて、関東に根付いた。ちなみに祇園（八坂神社）は牛頭天王を祭神としているが、神仏混淆では須佐之男命と牛頭天王は同じ神様である。

■田中正造と保木間の誓い〈案内板から〉

1890 年に発生した足尾銅山鉱毒事件は近代史上で特筆される公害事件である。1898 年（明治 31 年）9 月群馬県邑智郡・栃木県安蘇郡などの被害住民 3000 人が鉱毒被害を訴えるため上京した。被害問題に取り組んだ田中正造（当時衆議院議員）は、同年 9 月 28 日、上京する被害住民とここ保木間氷川神社で出会い、鉱毒問題の解決に努力するという演説を行い、被害住民を帰郷に導いた。この時被害住民は涙して演説を聞いたといい、これを保木間の誓いという。当時東京府南足立郡渕江村だったこの地では、村長塚田正助と村会議員が、上京途中憲兵や騎馬警官による阻止・排除を受けた被害住民に炊き出しを行って出迎え、被害住民と共に正造の演説を聞いた（「田中正造日記」）。こうした被害住民への支援は渕江村の人々と被害住民の農民同士の連帯感によって支えられたという。

■保木間富士

ここの狛犬は熔岩の土台の上に立っている。奥にある塚も熔岩積みで、２ｍの高さがある。

富士塚と書かなかったのは、塚の頂上にも鳥居にも榛名神社と書いてあるからだ。富士塚は浅間神社か富士神社に造られているのだから、榛名神社にあるのはおかしい。しかし脇にある石碑は富士塚修理の記念であるし、山の途中にある碑は丸参講の富士講の碑である。私は富士講の碑から考えて富士塚であると思っている。榛名山に間借りしている富士塚ってことにする。他の富士塚でも湯殿山とか羽黒山、榛名山などの碑がある。ごっちゃになっているのもまた庶民の知恵かもしれない。

花又富士　団地の中で独立した富士山　これぞ独立峰！

■花又富士（足立区花畑 5-10-1）

この地域は昔は花俣あるいは花又村とよばれていた。しかし明治 22 年の合併に際して花畑村になった。この辺りは昭和 39 年に花畑団地ができるまで、純農村地帯であった。所々に古墳らしい高まりがあったが、地元の人達はなんだかよく分からないがさわってはいけないものと考え、大事にしてきたが、団地建設の際にはそのほとんどが跡形もなく、つぶされたという。

この富士さん昔の名前のまま「花又富士」としている。写真のように団地のなかの空き地に、本物の富士山のように独立して立っている。普通の富士塚は神社やお寺の境内の一角に造られているが、ここは全く自主独立。

昔はこんな富士塚があったのだろうが、講を守る人がいなくなれば自然消滅して、岩は持ち去られた。戸外にこんな立派な富士塚が残っているという事は、この辺りの人達の信仰心が厚く、大らかだった事の証拠だろう。足立区にはいい人がたくさんいるというという事かな！

■花畑浅間神社富士塚≪案内板≫

富士塚とは、富士山を信仰する人々の集団である富士講によって築造された塚である。富士山の溶岩石を使用して小山を築き、頂上には浅間神社の祠を祀り、烏帽子岩、小御岳社をはじめ、実物の富士山と同様に各名所を配すのが一般的であり、登山して参拝できるようになっている。富士信仰は、文化・文政年間（1804～1829）に江戸を中心として爆発的に広まり多くの講中が結ばれ、講の発達に伴い富士塚の築造も盛んに行われるようになった。この富士塚は、千住神社、保木間氷川神社の富士塚と同じく伊藤参行を講祖とする丸参講による築造である。築造年代は明らかではないが、石鳥居の年代や伝承より明治初年と考えられている。また、花畑大鷲神社には、この講中により明治 5 年の記年のある富士登山絵馬が奉納されている。

花畑浅間神社は社殿を持たず、富士塚の頂上に祀る浅間社をそのまま社名とし「野浅間」といわれている。神社の北側を流れる毛長川流域には、多くの古墳や遺跡の存在が確認されており、この神社もその形態から古墳を利用したものと考えられており興味深い。

北側を毛長川がながれており、下流で綾瀬川に合流する。川の両側には古墳群があったことが知られている。竹の塚、谷塚などはその名残なのだろう。

七富士にこだわって、毛長川の向こうに行ってみるか、まあ六つでもイイやと保木間の温泉「じゃぽん」（足立区保木間 4-41-12）（800 円火曜日 60 歳以上 400 円）に浸かるのもいい。この温泉は天然温泉で地下 1300ｍからくみ上げている。地下の増温率は 100ｍで 3℃であるから、1000ｍ掘って地下水にあたれば 30℃にもなっている。今は 1000ｍくらい分けなく掘れるので東京には温泉が乱立しているのだ。温泉だけでなくガスが出てくる事もあるけど。地下水くみ上げ禁止で地盤沈下は止まったのだが、温泉くみ出しで、再発しなければいいのだが。少々心配している。

谷塚富士　毛長川の両側には歴史的な遺跡が多くある。

さて毛長川を渡ると埼玉県草加市。草加というのは芭蕉が「奥の細道」で最初に泊まった宿場と云う事になっている。いやいやそれは芭蕉忍者説をごまかすために創作しただけで、実際は初日に 30km 先の越谷宿に泊まっている。千住大橋を昼頃出立したのだからふつうの人は午後だけで 30km も歩けるはずはない。しかし芭蕉は苦もなく行っている。忍者の訓練をした人だからだ。それを知られないように 8km 先の草加宿に泊まった事にしたのだ。芭蕉もなかなかやるなあ。芭蕉は「はせお」と署名している。本当は「馳男」と書きたかったのだろう。私もあやかりたいのだが、アキレス腱が切れた身には、草加もはるか遠い場所だ。

■谷塚富士（草加市瀬崎町 510）

草加市瀬崎町の鎮守として知られる神社。創建年代は不詳で、小高くなった土地の上に鎮座している。浅間神社は旧入間川（毛長川）によって形成された自然堤防上に所在している。人工的に盛り土された可能性が高く、『新編武蔵風土記稿』に刀や曲玉、人骨の出土が記録されている「加賀屋敷」の古塚もある。浅間神社の土台も谷塚古墳群を構成する古墳を流用したものだろうと考えられている。

境内の東側に富士塚があるが、ここも小高くなっており、円墳を崩した跡に建てられたと思われる。この富士塚もまた、谷塚古墳群を構成する古墳の一つであるのかも知れない。

▲次回は 11 月 6 日（火）　江戸川区の富士塚めぐり

都営地下鉄・瑞江駅改札口　10:00 集合

下鎌田富士、上鎌田富士、今井富士　などなどを巡ります。